

## 会 議 録

会議の名称	和泉市環境審議会（平成 27 年度）
開催日時	平成 28 年 2 月 8 日 10:00～11:40
開催場所	和泉市コミュニティセンター 4 階中集会室
出席者	増田会長 高橋副会長 巖副会長 竹歳委員 藤田委員 藤森委員 吉田委員 松田義人委員 関戸委員 岸脇委員 西田委員 松田良輝委員 門林委員 大倉委員 伊勢川委員 橋本委員 梁取委員 （以上 17 名 順不同）
事務局	環境保全課
会議形態	公開
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
会議次第	1. 開 会 （1）副市長あいさつ （2）委員の紹介 2. 案 件 （1）第 2 次和泉市環境基本計画について ①平成 26 年度進捗状況〈報告〉 ②中間見直し(案) （2）環境マネジメントシステムの変更について ①ISO 14001 の認証返上及び I-EMS の導入〈報告〉 ②環境監査結果〈報告〉 3. その他〈報告〉 （1）ごみの有料化実施に伴う家庭系可燃ごみの推移について （2）和泉市信太山丘陵市有地公園協議会の自然環境保全活動の取り組み等について 4. 閉 会
議事要旨 【主な意見等】	1. 開 会 （1）副市長あいさつ（2）出席委員及び事務局の紹介を行った。 2. 案 件 （1）第 2 次和泉市環境基本計画について、①平成 26 年度進捗状況を報告し、②中間見直し(案)の内容について審議が行われた。 【委員】 ごみのリサイクル率について、徐々に減少していますが、昨年 10 月からの有料化に伴って、増加していきますか。 【事務局】 リサイクル率の低下の原因は、携帯端末等の電子端末の回収量、及び新聞雑誌等の古紙類の回収量が減少していることです。今後、古紙類などの回収量については、減る傾向が続くと思われます。市として PR できることとなりますと、今後開かれるごみ減量等推進審議会において、プラスチックごみの分別に関して取組みを強化する予定であり、少しでも目標に近づけるように努めます。 【委員】 信太山丘陵市有地に生息している貴重動植物の数について、現況値 6

	<p>種で目標値 6 種というのは、現況値から減らさないように絶滅しないようにという意味であることはよくわかりますが、単純に種数のみの評価でよいのかという点が気になります。環境の影響によって動植物種数の増減が生じる可能性を考慮すると、現状生息している 6 種を絶やさないというような表現を添えるなどの表記方法にした方が良いのではないのでしょうか。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>委員ご指摘のとおり、現状の 6 種を減らさないという目標でございますので、表現の仕方については再度検討し、ご相談させて頂きたいと思います。</p> <p>補足ですが、見直し版(案)の 50～51 頁には、生物多様性に富んだ施策を推進していく旨表記しております。また、来年度策定予定の和泉市総合計画にも指標として挙げている数値ですので、それらも踏まえて検討致します。</p> <p><b>【会長】</b></p> <p>特に貴重種のみを取り上げて議論するより、全体的な自然環境の維持、生物多様性に関する促進といった考え方が必要であるというご指摘だと思いますので、その辺りの表現方法及び考え方について、事務局にて再度ご検討及びご確認ください。</p> <p><b>【委員】</b></p> <p>河川水質の環境基準の達成状況と関係があると思いますが、公共下水道普及率を、元々の目標値 95%から、見直し案の目標値 89.3%に下方修正したことについて、状況をご説明ください。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>公共下水道普及率は平成 26 年度末現在で 86.7%まできており、年次計画的に事業を進めています。今回の見直しに関しては、平成 23 年度頃より経営状況や財政状況を鑑み、経営の効率化や健全化を図って、一部事業費の縮減等を行ってきたことから、目標値を下方修正しております。</p> <p>補足ですが、河川水質に関しては 7 割から 8 割が生活排水に起因しています。下水道の整備が徐々に進んできたことによって、河川水質の指標 BOD の環境基準達成状況については、5 年前の 90%から、近年は 100%に近い形で推移しています。</p> <p><b>【委員】</b></p> <p>一点目、再資源化集団回収の活動及び支援について、集団回収登録団体数を目標に挙げることも大切なことですが、団体数の増加に伴って回収量も必ず増加するという訳でもないと思いますので、この辺りの評価について、ご説明ください。</p> <p>二点目、家庭から発生するごみの減量化の促進について、取り組みの実績として駅前キャンペーンの実施との記載がありますが、どのような内容の普及啓発を行ったのか、ご説明ください。</p> <p>三点目、本計画の中には、例えば小型家電リサイクル法の制定などについての記載はございませんが、何か取り組んでいる施策などがありましたら、ご説明ください。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>一点目、古紙類回収方法として、地元自治会が取り組んで頂く集団回収と、市が直接集める行政回収の二つ方法がありますが、焼却処分場である泉北環境整備施設組合では、将来的に行政回収を止める方向で考えております。市としては、集団回収の量を増やすために、引き取り単価を上げると回収量がどのようになるか、その動向を見ていきたいと考えており、収集方法としてどのような方法が最適か検討していきます。</p> <p>二点目、駅前キャンペーンの普及啓発の内容についてですが、ごみ有料</p>
--	--

	<p>化の取り組みを実現していく中で、市が事務所内のみならず、外に出て啓発活動を実施することが大事であると考え、駅前キャンペーンを実施しています。地元説明会や広報等でPRを行っておりますが、その内容が市民の皆さんにより正確に伝わるように、説明を行っております。</p> <p>三点目、小型家電リサイクル法の制定などについて、市としては、今後できる限り啓発やPRを行っていく考えですが、現状ではあまり具体的な取り組みができておりませんので、処分場において関係する構成三市にて一緒に検討して参ります。</p> <p><b>【委員】</b></p> <p>一点目、いずみワールド・フェスティバルなどの際に「他言語版ごみ分別表を配布」とありますが、「多言語」とする方が適切ではないかと思えます。</p> <p>二点目、低公害車の普及啓発に関して、「低公害車」と「エコカー」という言葉の使い分けをしていますが、その定義について、ご説明ください。また、見直した目標の内容についても、ご説明ください。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>一点目、「多言語」について、再度確認しまして、改めまして修正します。</p> <p>二点目、平成21年に大阪府で大阪エコカー普及戦略が策定されて、この中で「エコカー」という定義ができましたが、本計画の元々の目標値はそれ以前に集計していたために、現在のエコカーの定義とは多少異なるものでした。また、現在の「公用車保有台数」は、市役所、病院、上下水道部、消防からの集計としていますが、当初の集計方法は異なる方法であったために、目標設定自体を変更することとしました。公用車の中には特殊な車両も多いため、大阪府の目標に沿った形で「新規購入割合2台に1台(特殊車両除く)をエコカーに」を目標に掲げて、市としての所有台数をエコカー割合50%に近づければと考えています。</p> <p><b>【会長】</b></p> <p>先程の下水道の普及率や接続率などもそうですが、専門用語で定義があるものについては、一般の方々が見ても分かり易く注釈を入れるなどの工夫があってもよいと思いますので、一度ご検証ください。</p> <p>また、先程ご指摘のあった新しい法令等の制定などに関しては、国等の動向を受けて対応を図る旨などの表記方法について、工夫して頂ければと思います。</p> <p><b>【委員】</b></p> <p>野山を散策した際などに、不法投棄されたごみをよく見かけます。いずみ環境くらぶなどにおける清掃活動によって、少しずつ減少しているようにも見受けられますが、粗大ごみ等の回収が困難なものもありますので、その辺りの現状を皆さんにも知って頂ければと思っております。</p> <p><b>【会長】</b></p> <p>わかりました。これは、ご提言ということで、今後とも市民と行政が一緒になって清掃活動等を実施して、大型のごみ等に対しても対応していけるように、ご検討よろしく願います。</p> <p><b>【会長】</b></p> <p>それでは、貴重なご意見等をたくさん頂きましたので、これらを盛り込んだ形で修正して頂き、第2次和泉市環境基本計画の中間見直し版を策定して頂きますよう、よろしく願います。</p> <p>(2) 環境マネジメントシステムの変更について、①ISO 14001 の認証返上及びI-EMS の導入及び②環境監査結果に関する報告を行った。</p>
--	---

	<p>【委員】 ISO14001 と I-EMS との違いは何か、ご説明ください。</p> <p>【事務局】 ISO14001 は、色々な手続きに関してマニュアルを作成し、その仕組みに応じて記録を残し、環境に配慮した取り組みを実践していくというものです。I-EMS は、その仕組みに準じた形で、事務量等をスマートにしたものになります。</p> <p>【会長】 外部評価の方法は、どのようにになりますか。</p> <p>【事務局】 ISO14001 では、外部の審査機関によって、取り組み内容や目標設定、PDCA サイクルの適正等を審査されます。I-EMS では、外部からの審査は想定しておりませんが、その代わり、内部による監査を充実させております。今年度は、市長、副市長が監査に一部同席し、各課等の取り組みの適正を審査致しました。</p> <p>【委員】 外部審査には費用もかかりますので、その辺りも含めて、これまで 14 年間行ってきた実績があるのだと思います。大阪府下でも、ほとんどの自治体で ISO を返上しているのでしょうか。</p> <p>【事務局】 はい、そのようです。ご指摘のとおり、ISO 返上に関しては、費用面の負担軽減ということも考慮致しました。</p> <p>【会長】 ご報告ありがとうございました。引き続き、環境に配慮した取り組みを継続して頂くよう、よろしくお願いします。</p> <p><b>3. その他</b> (1) ごみの有料化実施に伴う家庭系可燃ごみの推移について、報告を行った。</p> <p>【委員】 ごみの有料化を行うと、直後は減量効果がありますが、その後リバウンドしてしまうこともあると言われておりますので、資料にあるような定量的なデータを示して頂けると、次の施策に繋げていけるとと思います。ごみ減量に関して計画的な取り組みの継続を、今後ともよろしくお願い致します。</p> <p>【会長】 環境政策に関しては、モニタリングが重要となりますので、その辺り、今後ともよろしくお願いします。</p> <p>(2) 和泉市信太山丘陵市有地公園協議会の自然環境保全活動の取り組み等について、報告を行った。</p> <p>【会長】 10 年後の開園ということですが、何もせずにそのまま放っておくと、環境が劣化してしまいます。元々の信太山丘陵は湿地帯やススキ群落でしたが、しばらく人の手が入っていないと、現状はネザサやクズなどが繁茂してしまっています。継続的な保全活動を通じて、10 年後の開園を目指しているという取り組みのご報告でした。</p> <p><b>4. 閉 会</b> 閉会のあいさつ</p>
--	---

以上